

平成24年度

九州産業大学芸術学会

小講演会

●演題●

井上広一・アートディレクターの仕事

●日時

2012年

10月20日[土]
13:30-15:00

●会場

九州産業大学
芸術学部15号館
15101教室
後半は、ギャラリートーク [美術館]

●対象

九州産業大学芸術学部学生
および他学部学生・教員・一般

●聴講無料

●司会

藤田 公一
[芸術学部デザイン学科 講師]



九州産業大学美術館にて開催中の「井上広一・アートディレクションのほとんどぜんぶ」展に合わせ井上広一氏をお招きし、平成24年度九州産業大学芸術学会小講演会を開催いたします。なお、講演会は、講演とギャラリートークからなる二部構成となります。

一部は、「井上広一・アートディレクターの仕事」と題して本学の卒業生でもあり、アートディレクターとしてご活躍されている井上氏に、アートディレクターという仕事がどんなものか、さらにはアイデアをカタチにする面白さ、制作の舞台裏などをお話していただきます。二部では、会場を美術館へ移し、実際の作品に触れながらギャラリートークのスタイルで行います。(二部のギャラリートークは会場の都合上、聴講者数を制限する場合がありますので、あらかじめご了承ください。)

井上広一 Koichi Inoue

1994年に本学デザイン学科に入学。在学中にヨーロッパのフィルムメーカー AGFA [アグファ・ゲバルト] 社が世界18カ国を対象に主催したデザインコンテストにてゴールド賞を受賞。1998年に卒業後、アメリカのクリエイティブエージェンシー、Wieden + Kennedy Tokyo [ワイデン+ケネディトウキョウ]の立ち上げと同時に入社。NIKE [ナイキ]、森ビル、KUMON [くもん]、Starbucks Coffee [スターバックスコーヒー]などのクライアントを担当。2005年に独立、クリエイティブ・ブティック ORYEL [オーエル] を設立。

「大切にしているのは、クライアントとの対話。このプロセスからヒントを見つけ、徹底的に考え、カタチにすることで、ただの美しさや目新しさに終わらない、想いの通ったクリエイティブが生まれる」と考え、「クライアントやブランドのメッセージをもっとも“伝わりやすいカタチ”にする」*ことを仕事とする井上氏は、Felisi [フェリジ]、PHENIX [フェニックス]、Zeha [ツェハ]、などのブランドや企業と深く関わりながら、広告やグラフィックデザイン、ロゴデザイン、ウェブデザイン、空間ディレクションといった、ジャンルや媒体にとらわれない幅広いクリエイティブワークを展開している。

*-----ORYEL サイトより

●講演●

井上広一

「アートディレクター」

1976 ●福岡県八女生まれ

1994 ●九州産業大学芸術学部デザイン学科入学

1997 ●ヨーロッパのフィルムメーカー AGFA [アグファ・ゲバルト] 社主催の国際デザインコンテストで日本においてゴールド賞受賞

世界各国で選ばれたゴールド賞受賞者が、ベルギーの AGFA 本社に集まり、そこで行われたワークショップに参加

1998 ●九州産業大学芸術学部デザイン学科卒業

●アメリカのクリエイティブエージェンシー Wieden+Kennedy Tokyo [ワイデン+ケネディトウキョウ]の立ち上げと同時に入社

NIKE [ナイキ]、森ビル、KUMON [くもん]、Starbucks Coffee [スターバックスコーヒー]などのクライアントを担当

2005 ●クリエイティブ・ブティック ORYEL [オーエル] 設立

[Felisi [フェリジ]]、[Phenix [フェニックス]]、[スキナー・アウトドアブランド]、[Zeha [ツェハ]]、[スニーカーブランド]などのブランドや企業と深く関わりながら、クリエイティブワークを展開広告やグラフィックデザイン、ロゴデザイン、ウェブデザイン、空間ディレクションといった、ジャンルや媒体にとらわれない幅広いクリエイティブワークをおこなっている